

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家参番館 第一ユニット		
所在地	北海道札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	令和4年 6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年 9月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503544-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスが流行る前と比べて、ご家族とご本人の関わる回数が減ったり、外出の頻度は大きく減った。そのため、ご家族への連絡はこまめに行うようにしている。また、ホームでの様子が分かるように毎月新聞をご家族に郵送し、状況が分かるような工夫をしている。入居者様が入居されてから退去に至るまでのアルバムを作成し、退去時にご家族向けにプレゼントをしている。今までに退去されたご家族からは、「アルバムを大事にしています。今でも見返しています。」とお礼のお言葉を頂いたこともある。今後の面会方法として、リモート面会を取り入れていく予定である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR駅やバス停、商業施設、公園などに近く生活至便な環境にある2ユニットの事業所である。建物構造は鉄骨造り4階建てで3～4階部分にあり、同法人介護付有料老人ホームが階下に併設されている。開設時より地域に根差し地域交流や家族招待行事などを実施してきたが、感染対策により様々な取り組みが自粛中である。管理者は運営の方向性を把握し業務の方法と実施体制の見直しに着手しており、サービス提供のプロセスを明らかにしながら職員と共に事業所能力の向上に努め利用者支援の推進力を高めている。利用者の生活課題にあってはモニタリングとアセスメントを繰り返し検証するケアマネジメントに優れ、適切な支援を導き効果を上げている。その個々の詳細は運営推進会議議事録にも提示しており、家族にとり毎月の個別の写真や便り以外に利用者の状態像が確認できるものとなっている。利用者の意見や意向等は関係機関や家族とも連携し最大限生活へ反映するなど権利擁護を重視する視点が窺える。外出が難しい中、室内で楽しめる季節行事やレクリエーション、作業等を職員のアイデア豊富に提供している。買い手と売り手に扮する買い物レクは利用者により好評となり、金銭の計算やコミュニケーションなどの能力発見にもつながり利用者職員が盛り上がる場面も多かった。運営法人の数々のバックアップ体制や終末期支援への尽力も特筆できる。職員がチームとなって専門性を発揮し利用者1人ひとりの人生を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに法人理念を掲示している。また、タイムカードのタブレットにも掲示している。	昨年度、地域密着型サービス提供における更なる安定や構築を目指し法人理念の改定が行われ、事業所内要所やタブレットに明示し全体会議で唱和している。事業所独自理念の見直しにも着手しており、支援の拠り所となる文言を職員から意見を募り策定中である。	理念は関わる方々との共有により培われ、相互理解や浸透により良質な運営へと積み上げられていくものと考えられる。理念を運営推進会議等で家族や地域関係者に周知する考えを示しているため、その取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス蔓延防止により、多くの人がある場所や近隣のスーパーへ買い物には行けておらず代行している。天気の良い日には入居者様と近所の公園に散歩に行っている。	町内会に加入し資源回収の協力や回覧文書が届けられている。ボランティアの受入れやスーパーへの買い物は自粛中である。先だっの選挙には期日前投票に職員同行で出かけ権利の擁護と共に地域社会とつながる支援に至っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話にて入居の相談や、見学に来られた方に対してグループホームについての役割や認知症の症状の説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで行っている。コロナウイルス蔓延防止のため集まってははいない。郵送にて対応している。	運営推進会議は職員のみ参集にて開催し、地域包括支援センターと家族へ会議録を送付している。会議文書には近況報告や意見交換のほか、職員の支援等による利用者の状態像を詳細に提示している。	運営推進会議は関係者等と取り組み内容や改善課題を話し合ったり、地域理解と支援を得るための貴重な会議であるが、感染症の流行で有効な会議運営が難しくもある。地域関係者とも可能な部分で関わりが保てるよう議事録の送付を検討しているので実施に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市より依頼されるアンケートや調査票はその都度提出している。また、都度分からないことがあった際には電話にて伺っている。	運営法人と事業所は、市の指導や助言をもとにリスクマネジメントチェックリストにて毎月自己評価に取り組む仕組みを構築し継続的实施により質の確保に努めている。事故報告書や入居状況等調査票、諸書の調書、アンケート類を行政担当者へ提出し協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回は必ず身体拘束委員会で勉強会を行っているが、入職して半年以内の職員は行っていないため今後実施していく。現状、非常階段の出入り口は施錠を行っているが身体拘束は行っていない。	身体拘束適正化に係る指針の改定に取り組み、委員会構成員の更新や実際の検証事項の記録のあり方を含め検討を進めている。これらに係る内部研修を年2回実施し「高齢者虐待・身体拘束防止の基本」等を学んでいる。ユニット玄関の施錠状況では利用者の自由な出入りを職員の支援により保証しており制限するものとはなっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の開催、勉強会等で虐待防止に努めている。変色等あった際には、原因を突き止め、リスク対策に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で成年後見制度を利用している方はいないが、全職員が制度についての理解が乏しい。今後制度を利用する事になる可能性が高いため、全職員が勉強会などを通じて制度について学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際、不安や疑問点を尋ね、理解・納得されるよう説明を行っている。また、介護保険改定時には都度、説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に意見・苦情を受け付けている窓口の説明を行い、契約書にも記載している。玄関に意見箱を設置しているが、蔓延防止のため面会を行っておらず活用されていない。そのため、ご家族等に電話にて連絡する際に都度、意見・要望をお聞きするようにしている。	家族・利用者からの意見等を貴重なものと捉え、事業所全体で対応が協議されている。服薬管理への意見では職員チェック態勢やマニュアルの見直しが行われた。居室1人での食事の希望では安全性におけるアセスメントとモニタリングを重ね本人・家族と話し合い多少なりとも満足感が得られる方向性を見出した。金銭に不安のある利用者へは実際を目に見える形で提示したり成年後見制度活用に向けている。デイケアや訪問看護の要望にも関係機関と連携し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議を月/1回設け、職員の意見や提案に対して話し合いを行っている。また、週1回の頻度でコアメンバー会議を行い、他職員の意見等を聞き、都度反映している。	職員面談は職員個々に面接頻度を設定し、育成や就業環境の整備に向けている。法人の委員会以外に事業所独自に感染・リスク防止対策委員会を設け、また定例的に諸会議を開催し職員の意見や提案、情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整する態勢である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員、今後の目標・課題を設定し業務に取り組んでいる。半期ごとにそれらについて評価を行っている。評価に応じて昇給・昇格の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに基づいて法人内での研修(リモート)や、委員会活動、全体会議で勉強会を毎回ではないが行い、職員の育成に努めている。課題などがあつた際には都度面談を行い、話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのリモート研修や委員会、中間管理職研修を定期的に行い、他事業所との交流を図っている。蔓延防止のため集まりはほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでどのような生活をされていたか、現在の困りごとなどの話を伺い、その都度丁寧に対応することで信頼関係を形成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様についてや家族様自身の困りごとを伺い、その都度丁寧に対応することで信頼関係を形成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	下肢筋力の低下や心身機能の維持向上のため、訪問リハビリやデイケアを利用されている入居者様がいます。利用する前にご本人・ご家族の意向も伺い、理解と納得をされた上でサービスの利用を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自身でして頂いたり、タオルたたみ等の軽作業をして頂きそれぞれに役割を持って頂くことで自立した生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや定期的に連絡を行い、本人様の様子を伝えている。蔓延防止のため面会は行っていないが、本人様が好きなお菓子などを差し入れて持ってきてくださる等、共に支えていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでどのような生活をされていたかお話を聞き、情報共有をしている。現在、蔓延防止のため面会は行っていない。	家族との調査時点での面会態勢は、窓越し、リモート、電話での対応である。家族から届く手紙等を自室で好きな時に繰り返し読めるよう収納ケースを用意置き場所の見当識への配慮がなされ、また、利用者が母の日に家族へスクラッチアートを作成し送るなど、家族との関係継続を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格や関係性を把握し、トラブルを未然に防げるようサポートしている。それでもトラブルがあった際には都度仲介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不安や相談があれば相談して頂いている。また、退去時に入居してからの生活の様子をアルバムにし、お渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話を伺い希望や要望を聞いたり、言動から推測して把握に努めている。また、内容を記録し情報共有に努めている。定期的モニタリングやカンファレンスを行い、ケアの向上に努めている。	利用者1人ひとりの思いや意向に関心をはらい把握に努めている。直接言葉で表せる利用者の生活意向については適宜介護計画に反映させて望む生活の実現につなげ、表出が難しい利用者の場合は職員間で情報を分析し本人がどうかという視点で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前または入居後にご家族やご本人にお話を伺い、センター方式に記録することで共有と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご本人と接する中で状況把握に努め、記録して情報共有をしている。必要に応じてカンファレンスを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員に居室担当を割り振りしている。定期的または変化があった際には介護計画書の見直しを行っている。都度、ご本人とご家族からの要望などを取り入れて反映している。	アセスメントとモニタリングを繰り返し、設定期間よりもより本人・家族の要望や変化に応じ、関係者間で検討会議を開催し介護計画を作成している。適宜、福祉用具関係者や医療機関とも連携し助言を得て必要な支援を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子などを記録し、視覚化することで職員間で情報共有を行うと同時に気づいた改善点等を介護計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	負担軽減、転倒防止などのため福祉用具を活用している。また、デイケア・訪看・訪問マッサージなど外部サービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により入居者様と一緒に近くのスーパーなどへ買い物に行ったり、外食は行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ご家族やご本人の意向を聞き、行きなれた病院があれば継続。とくに希望がなければ法人で提携を結んでいる病院を提案させて頂いている。	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関の受診が可能で家族の協力を得て対応している。月2回協力医療機関内科医の往診や必要時の歯科往診、月4回医療連携による訪問看護の体制を整えている。医療保険による訪問看護やデイケア通所を利用する利用者もおり個々人の適切な医療支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月/4回、医療連携の看護師が訪問される。都度、体調等の変化があった際には報告し、情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院先のSWと連絡を取り合い、ご本人の状態を共有するよう努めている。退院前には、ご本人の状態を直接見に行きカンファレンスを行っている。退院されてもご本人が安心できるよう対応するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を行い、署名をして頂いている。ご本人の状態の変化があった際には都度お伝えし、早い段階から対応するよう努めている。	利用契約時に重度化対応に関する指針についての同意書と、急変時における介護及び医療等に関する意思確認書を取り交わし、早期の段階から関係者間で方針を共有している。看取りについても同意書を取り交わし、利用者や家族の望む支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルを作成しており、全職員に周知をしている。現状、入職して3か月以内職員については勉強会がまだできていないため今後行う予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災の避難訓練は行っているが、水害・地震の訓練は行っていない。コロナの影響により地域の方と合同での訓練は行っていない。	令和3年10月、4年3月に火災・夜間想定避難訓練を全館合同で行った。感染対策により地域住民の参加は見送られている。自然災害における業務継続計画(BCP)は運営法人にて策定中である。	いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう備えることが重要である。地震想定訓練を検討しているので実現に期待すると共に、災害時は通信遮断もありうることから家族へ広域・収容避難場所の周知が望まれる。また災害に備えた備蓄品管理体制の改善に努める意向が示されているので、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊厳とプライバシーに十分配慮し、声掛けや対応を行っている。	職員は接遇や認知症ケア研修を受講し、人格を尊重した介護に努めている。利用者の個人記録類は他者の目に触れぬよう保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご本人の思いや希望を伺い、自己決定ができる方は働きかけている。自己決定が難しい方は、言動から真意をくみ取りご家族等に相談し決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動・レクやお散歩など、ご本人の要望・希望を都度伺ってなるべく希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい方に関しては、毎日同じ服にならないよう配慮している。また、洗顔・歯磨き・髭剃り・爪切り・髪も清潔を保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食材カットのお手伝いができる方には職員付き添いにて行っている。食後には、食器洗い・食器拭き・後片付けも出来るように環境整備を行い、一緒に取り組んでいる。	配食サービスを利用し事業所で米飯と汁物を作り提供している。おやつ作りや月に1~2回の行事食も利用者が準備段階から一緒に参加している。出前寿司やもんじゃ焼き、バーベキュー、昔の給食など利用者が楽しめる献立を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量や食事制限がある方がいるので、米飯量を個々に合わせて調整している。また、食べやすいようにカットしたり米飯をおかゆにするなどして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に口腔ケアを行っている。歯磨きが自力で困難な場合は介助にて支援している。歯ブラシの交換は歯科医師と相談し、3か月に1回のペースで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、定期的トイレ誘導を行う事で失禁の回数を減らすよう支援している。	排泄の記録は総合記録シートに記入し、状態像を確認している。トイレでの排泄を基本に個々に応じた誘導と介助を行い失禁を防いでいる。パッド等の排泄用品は利用者の快適性を大切に、最適となるよう職員間で検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供して腸の活動を働きかけている。便秘傾向である方はとくに水分摂取量にも注意している。便秘症状が強い方は、かかりつけ医と相談し、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週/2回は提供している。入浴日や、シャワー浴・入浴に関して希望があれば都度対応している。	日曜日を除く週6日間の入浴態勢である。午前が基本であるが日により午後も支援している。週3回の希望や1番風呂のリクエスト、望む湯温を考慮するなど満足感に配慮している。入浴を拒む場合は無理強いせず、時間を置いたり別日に誘い対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて、休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルにて管理している。薬に変更があった際には、受診記録だけでなく、連絡ノートを活用して全職員へ周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などのお手伝いは個々の能力に合わせてできるよう支援している。ある入居者様は、1日3本までと職員管理で電子タバコを吸っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出支援が行えていない期間が多かった。現在は、人ごみの多いところや建物の中には行けないが、公園やお散歩の許可が下りたので、ご本人と相談し天気の良い日には出かけられるよう声掛けしている。	人流を見極め感染対策を講じつつ、散歩や公園に出向き気分転換が図れるようにしている。病院の外来受診もドライブ外出として貴重な機会ともなっている。利用者からの選挙への希望に応え、白石区役所へ期日前投票の同行支援を行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にホームで預かっている。コロナの影響により、買い物はすべて代行しており、ご本人がお金を持つ機会はない。必要時には預り金から支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様によっては携帯を所持されているため、ご家族に自ら電話されている。その方以外は、認知力低下により電話や手紙のやり取りはしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂場が分かるように張り紙をしており、目で見ても分かるように工夫をしている。	共用空間にはエアコン、扇風機、空気清浄機等を設置し換気にも配慮して居心地のよい環境を保てるようにしている。リビングに日めくりや大きなカレンダー、今日は何日かが分かる掲示や要所への張り紙を行い見当識に配慮している。壁には利用者と職員が一緒に制作した季節感ある作品を飾っている。食事テーブルにパーテーションを設置し感染対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格などを配慮してフロアでの席を考えている。フロアにソファを設置しておりくつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が馴染みのある物を居室に置かれることで生活、場所の変化への不安が減るよう努めています。	居室入口に表札を掲示し自室と分かるようにしている。居室内は納戸、ストーブ、照明の備え付けがあり、馴染みの家具や調度品を持ち込んでいる。パスカードや色紙、アルバム、家族からの手紙などが置かれいつでも目に触れられるように整えている。利用者の身体状況に応じベッドから出入り口までの動線にタッチアップ型手すりを設置するなど安全な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を見える場所に置いています。車椅子の動線確保、手すりの前に物を置かないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家参番館 第二ユニット		
所在地	北海道札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	令和4年 6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年 9月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0170503544-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスが流行る前と比べて、ご家族とご本人の関わる回数が減ったり、外出の頻度は大きく減った。そのため、ご家族への連絡はこまめに行うようにしている。また、ホームでの様子が分かるように毎月新聞をご家族に郵送し、状況が分かるような工夫をしている。入居者様が入居されてから退去に至るまでのアルバムを作成し、退去時にご家族向けにプレゼントをしている。今までに退去されたご家族からは、「アルバムを大事にしています。今でも見返しています。」とお礼のお言葉を頂いたこともある。今後の面会方法として、リモート面会を取り入れていく予定である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットにそれぞれ法人理念を掲示している。また、タイムカードのタブレットにも掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス蔓延防止により、多くの人がある場所や近隣のスーパーへ買い物には行けておらず代行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話にて入居の相談や、見学に来られた方に対してグループホームについての役割や認知症の症状の説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで行っている。コロナウイルス蔓延防止のため集まってはいいない。郵送にて対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市より依頼されるアンケートや調査票はその都度提出している。また、都度分からないことがあった際には電話にて伺っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回は必ず身体拘束委員会で勉強会を行っているが、入職して半年以内の職員は行えていないため今後実施していく。現状、人感センサーやチェアーセンサーを使用しているが、行動を抑制するためには使用していない。また、非常階段の出入り口は施錠を行っているが身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の開催、勉強会等で虐待防止に努めている。変色等あった際には、原因を突き止め、リスク対策に努めている。		

グループホーム ハートの家 参番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様がいるが、全職員が制度についての理解が乏しい。勉強会などを通じて学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際、不安や疑問点を尋ね、理解・納得されるよう説明を行っている。また、介護保険改定時には都度、説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に意見・苦情を受け付けている窓口の説明を行い、契約書にも記載している。玄関に意見箱を設置しているが、蔓延防止のため面会を行っておらず活用されていない。そのため、ご家族等に電話にて連絡する際に都度、意見・要望をお聞きするようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議を月/1回設け、職員の意見や提案に対して話し合いを行っている。また、週1回の頻度でコアメンバー会議を行い、他職員の意見等を聞き、都度反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員、今後の目標・課題を設定し業務に取り組んでいる。半期ごとにそれらについて評価を行っている。評価に応じて昇給・昇格の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに基づいて法人内での研修(リモート)や、委員会活動、全体会議で勉強会を毎回ではないが行い、職員の育成に努めている。課題などがあつた際には都度面談を行い、話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのリモート研修や委員会、中間管理職研修を定期的に行い、他事業所との交流を図っている。蔓延防止のため集まりはほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでどのような生活をされていたか、現在の困りごとなどの話を伺い、その都度丁寧に対応することで信頼関係を形成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様についてや家族様自身の困りごとを伺い、その都度丁寧に対応することで信頼関係を形成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	下肢筋力の低下や日常生活にメリハリをつける、心身機能の維持向上のため、訪問リハビリ(マッサージ)やデイケアを利用されている入居者様がいる。利用する前にご本人・ご家族の意向も伺い、理解と納得をされた上でサービスの利用を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に寄り添い、ご本人の希望を優先したケアを行っている。ご本人がやりたい事や食べたいものなどをレクリエーションなどで提供して可能な限り要望に応えるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との相談や連絡を欠かさず行い、入居者様から希望があれば家から馴染みの物を持ってきてもらうなど、共に入居者様を支える関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私物の電話帳で馴染みの方に電話をかけている入居者様もおり、関係など大事に支援している。コロナウイルスが流行る前は定期的に宗教の参拝をしていたが現在は行っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や性格を把握し、トラブルを未然に防ぐよう注意しながらも入居者様同士の関りの場を積極的に設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてホームでの生活・心身健康状態をお伝えしている。継続的な支援が必要な時は支援し、相談に応じている。退去時にアルバムをお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話を伺い希望や要望を聞いたり、言動から推測して把握に努めている。また、内容を記録し情報共有に努めている。定期のモニタリングやカンファレンスを行い、ケアの向上に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前または入居後にご家族やご本人にお話を伺い、センター方式に記録することで共有と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご本人と接する中で状況把握に努め、記録して情報共有をしている。必要に応じてカンファレンスを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員に居室担当を割り振りしている。定期的または変化があった際には介護計画書の見直しを行っている。都度、ご本人とご家族からの要望などを取り入れて反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は入居者様目線で記入し、その時の会話や状況を詳しく記入するよう心掛けている。重要なことは赤字で記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	負担軽減、転倒防止などのため福祉用具を活用している。また、デイケア・訪看・訪問マッサージなど外部サービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により入居者様と一緒に近くのスーパーなどへ買い物に行ったり、外食は行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ご家族やご本人の意向を聞き、行きなれた病院があれば継続。とくに希望がなければ法人で提携を結んでいる病院を提案させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月/4回、医療連携の看護師が訪問される。都度、体調等の変化があった際には報告し、情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院先のSWと連絡を取り合い、ご本人の状態を共有するよう努めている。退院前には、ご本人の状態を直接見に行きカンファレンスを行っている。退院されてもご本人が安心できるよう対応するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を行い、署名をして頂いている。ご本人の状態の変化があった際には都度お伝えし、早い段階から対応するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルを作成しており、全職員に周知をしている。現状、入職して3か月以内職員については勉強会がまだできていないため今後行う予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災の避難訓練は行っているが、水害・地震の訓練は行っていない。コロナの影響により地域の方と合同での訓練は行っていない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊厳とプライバシーに十分配慮し、声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご本人の思いや希望を伺い、自己決定ができる方は働きかけている。自己決定が難しい方は、言動から真意をくみ取りご家族等に相談し決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動・レクやお散歩など、ご本人の要望・希望を都度伺ってなるべく希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい方に関しては、毎日同じ服にならないよう配慮している。また、洗顔・歯磨き・髭剃り・爪切り・頭髪も清潔を保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	硬いものが食べられない方はカットして提供している。その際、カットしすぎて見た目が悪くならないよう工夫をしている。食後は食器拭きや後片付けのお手伝いができるような環境整備を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を好まれず摂取が難しい方に関しては、水分ゼリーを提供したり、果物で水分・栄養を補って頂ける様、ご本人やご家族に好みを伺い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に口腔ケアを行っている。歯磨きが自力で困難な場合は介助にて支援している。歯ブラシの交換は歯科医師と相談し、3か月に1回のペースで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、定期的にトイレ誘導を行う事で失禁の回数を減らすよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を好んで摂取されない方には、水分ゼリーや果物を提供し、水分摂取量増加に努めている。便秘症状が強い方は、かかりつけ医と相談し、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週/2回は提供している。入浴日や、シャワー浴・入浴に関して希望があれば都度対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で訴えるのが難しい方は職員が都度声掛けし対応している。体調や除圧のため定期的に臥床時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルにて管理している。薬に変更があった際には、受診記録だけでなく、連絡ノートを活用して全職員へ周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて家事などの役割を持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出支援が行えていない期間が多かった。現在は、人ごみの多いところや建物の中には行けないが、公園やお散歩の許可が下りたので、ご本人と相談し天気が良い日には出かけられるよう声掛けしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にホームで預かっている。コロナの影響により、買い物はすべて代行しており、ご本人がお金を持つ機会はない。必要時には預り金から支払いをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があった際には都度対応している。定期的にご本人からご家族に電話をしている方もいる。その方はケアプランに基づいて支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙や、一緒に作ったレクの作品、アルバム風の写真を貼り楽しめるようにしている。トイレや洗面所のドアに張り紙をしており、入居者様が分かりやすいようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰でもくつろげるソファを置いています。気の合った者同士、一緒に過ごせるような席を考えています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が馴染みのある物を居室に置かれることで生活、場所の変化への不安が減るよう努めています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を見える場所に置いています。車椅子の動線確保、手すりの前に物を置かないようにしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家参番館

作成日：令和 4年 8月 20日

市町村受理日：令和 4年 9月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束委員会のメンバーが更新されていなかった。 身体拘束委員会のあり方を周知していなかった。 今までの身体拘束委員会は勉強会のようになっていた。	身体拘束委員会の指針の委員会メンバーを更新し、全職員に周知する。 今後の身体拘束委員会は、帰宅願望の強い方への対応についてなど話し合いをしていく場として設けていく事とする。	身体拘束委員会の指針を更新し、各ユニット会議で発表していく。そこで今後の委員会の在り方を周知していく。また、ユニット会議の場を持って身体拘束委員会を開催していく事とする。	実施済み
2	2・5	地域との関り、町内会長など意見交換が行える関係性作りを行えていない。	町内会長を初めとした地域の方との関りを増やしていく。最終的に運営推進会議の送付やりとりができるように関係性を築き上げていく。	2020.9.3の地域の防災訓練にホーム長・主任の2名で参加し地域との交流を深める機会を作った。 交流を深め、今後運営推進会議録の送付やりとりを行える関係性を築いていく。	9月中
3	35	火災訓練は実施できているが、水害や地震の訓練が実施できていない。 避難場所が職員やご家族に周知できていない。 BCPが作成途中にある。(令和6年4月から義務化になる)	BCP作成担当職員を割り振りし、6か月間で完成を目指していく。 BCP完成後、運営推進会議でご家族に周知していきたい。	職員を割り振りし6か月で完成を目指していく。3か月後進捗状況を確認する予定。	6か月
4	1・4・10	法人理念が去年の9月から更新しているがご家族や地域の方に発信していない。 ご家族からの意見交換をする場を設けられていない。 居宅療養管理指導をご家族に郵送していない。	9月の運営推進会議に法人理念が変更したことをお知らせし周知していく。 管理者が去年9月から変わり、1年経過したタイミングで家族アンケートを実施していく。 居宅療養管理指導をご家族に郵送していく。	9月の運営推進会議に法人理念が変更したこと、居宅療養管理指導をご家族に郵送していくことのお知らせし周知していく。 9月の郵送でご家族アンケートを実施していく。	9月中
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。